

# 美術館に行こう！

H23年版

## ★主な活動内容

- ・国内外の美術、芸術に親しみ、作品を通して自己の思いをまとめてプレゼンする。
- ・ギャラリーなどに出向いて作者の、作品の制作意図を聞いたり、作品を批評する。
- ・小学生と共に美術館に出向き、学校に感想を発表したり考察したりする。

## ★行った美術館等

- ・京都市美術館
- ・フェルメールからのラブレター展
- ・ワシントンナショナルギャラリー展
- ・美術館「えき」KYOTO「教須高德展」
- ・フォルム洛中庵
- ・「永田萌原画展」
- ・ギャラリーPARC
- ・「すみっ、こにみつける」
- ・ギャラリー「松田節憲水彩画展」



- ・同時代ギャラリー
- ・「こおいちかい」
- ・「下園雄輝、和田萌恵二人展」

## ★フェルメールからのラブレター展

十七世紀オランダ絵画を代表するヨハネス・フェルメールは緻密な空間構成と独特な光の質感で描かれた作品群は、今なお人々を魅了してやみません。そして三十数点しか存在しない作品数が、彼に対する人々へ興味をかきたてます。日常の描写を描くことの多いフェルメール作品の中でも、重要なモチーフとなっている「手紙」の作品の中から、その中に隠されたメッセージを感じ、読み解き、またフェルメールと同時期に活躍したピーテル・デ・ホーホ、ヘラルト・テル・ボルフらオランダ黄金期の画家の作品も展示されています。



上の写真内真ん中にある写真はフェルメールの描いた「手紙を読む青衣の女」で、この女の人が着ている服の青色はラピスラズリという高価な鉱石を原料にした絵の具によって描かれた。最近までは、傷んでいてこのような綺麗な青色は見る事ができなかったが、修復されたため青の輝きをとり戻すことができた。

## ★ワシントンナショナルギャラリー小学生との交流

ワシントンナショナルギャラリーはアメリカの首都にあり、全ての所蔵品は一般市民の国への寄贈からになります。開館七十年を機に行われる大規模改修によって、同館が誇る印象派とポスト印象派の傑作が一堂に会する展覧会が実現しました。クールベヤコロを導入部とし、印象派の先駆者といわれるマネ、そしてモネ、ルノワール、ドガウ印象派世代を経て、セザンヌやゴッホなどポスト印象派にいたる八十三点で構成されています。今回、私たちは附属桃山小学校の小学生と一緒にこの展覧会を見に行きました。そして後日、本校で、展示されていた作品について、小学生と感想を言い合う交流会を開催しました。そこで小学生に人気があった作品と、それに対する小学生の意見を紹介します。

### ★フィンセント・ファン・ゴッホ作



●バラがさわやかに描かれている。  
●落ちていたバラが少し寂しそうだった。  
●バラは、風が吹いて落ちたのかも。

### ★クロード・モネ



●静かな絵で植物がしっかりしている。  
●少し夕方っぽい。

### ★エドゥアール・マネ作



●細かいところまで書き込まれている。  
●はっ、ここにびどうが書かれている。

## ★全体を通したまとめ

先入感の無い小学生の意見は新鮮で、これからの絵の見方の参考になりました。  
私たちは、いろんな美術館を訪ねたり、小学生と意見を交換したりすることで、より美術への関心が強くなりました。MEETは終わりましたが、これから美術品を鑑賞していきたいです。